

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773100516		
法人名	医療法人大久保クリニック		
事業所名	グループホームおおくぼ		
所在地	福島県田村市船引町船引字扇田232-1		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本家の家族時と同じ安らぎを感じてもらえるような雰囲気づくり。
地域のボランティアさんとの交流を楽しめる支援をしている。
利用者様の残存機能を少しでも多く生かされている支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が穏やかな生活ができるように、職員は、声掛け時の言葉を選んだり、やわらかな表現を心がけている。管理者はいつも笑顔で職員や、利用者に接している。運営委員会で紹介されたボランティアの協力で、料理や踊りを楽しんでもらったりして、地域の人達に理解してもらい、支えてもらえる事業所となるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を棟内数か所に掲示しており職員が確認してケアサービスにつなげている。 毎朝、申し送り直前に職員全員が事業所理念を合唱し、実践サービスを行うよう心がけている。	利用者の状態をきちんと把握して支援していけるように、朝の申し送りには、特に注意して、体調や、感情の変化を見逃さないようにしている。利用者がいつも自分らしい生活していける環境を整えて、見守りしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域草刈りに参加。広い範囲で地域の方にグループホームおおくぼを知って頂けた。区長さん、副区長さん、民生員さんとの交流断続。組役員さんの交換時期を迎えましたがみなさんにお世話になりながら支えて頂きグループホームおおくぼは幸せです。	年二回の地域の草刈りには、職員が参加している。民生委員や区長は、いつも心がけてくれ、先月の大雨で事業所前の川の水量の変化情報を伝えて、避難時の援助も申し出てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者をケアする実践者として専門知識を理解。人権、権利擁護を学び運営推進会議で地域に向け認知症の人への理解を発表をし機能も生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんからの苦情や相談ごとなど運営推進会議員さんの民生員さんも加わり地域で支える支援を取り入れている。行事の発表、ヒヤリはっと報告、研修報告を聞いて頂き、第三者から見た意見などを頂いている。時には当法人看護師の参加で医療面での話し合いも盛り込んでいる。	民生委員や区長の参加が毎回あり、ボランティアを紹介してくれている。事業所からは、利用者の転倒骨折の事故や状態の報告をして、理解や協力をお願いしている。地域の理解が深まって、家族の訪問が増えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	田村市高齢福祉課さんには困ったことや分からない事があればいつでも相談にのって頂いているので安心している。H26.4指定更新の指導等もしっかり支えて頂きました。	空室がでた時には、すぐに担当者に連絡をしている。支援が困難な利用者の対応には、地域包括支援センターの職員に、積極的に連絡相談して、適切な指導をうけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームおおくぼ身体拘束マニュアルと合わせ職員全体で何度も話し合われている。医療上身体拘束となる行為がある利用者様には拘束をしない時間を決め見守りて対応している。	利用者同士で言い争いになったときは、職員はやさしい言葉をかけ落ち着かせ、お互いの感情を鎮めている。独り歩きをする利用者には、安全確保のために特に気をつけて見守り、職員同士で合図し連携しあい、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に積極的に出席し虐待防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成25年度福島県認知症高齢者実践者研修に2名の職員が受講しました。 平成28年度に1～2名の職員が受講予定、		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族が出席して意見や提案を発言していただいている。定期的な面会があるご家族もいて職員に気兼ねなく意見が言える雰囲気作りを心がけている。意見が聞かれた場合には速やかに対応している。	家族の来所時、身体の動き・食欲等、利用者の日頃の様子を話し合っている。脚の筋力低下による転倒予防についての質問に、歩行運動・体操等を取り入れ、今ある運動機能の低下を少しでも遅らせるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を定期的に設け職員の意見や提案を反映させている。	管理者は、職員の仕事の内容を細かく把握し、何時でも話し易く相談出来、ストレスを溜めないで働ける職場環境作りに配慮している。急に夜勤が出来ない時もスムーズな職員交代で対処している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会に積極的に出席。向上心を持って働ける職場環境が出来ている。8月、12月賞与はパート職員も正社員もいただける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務表も研修に出やすいように作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、交流会に出席していて情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、入居時、ケアプラン作成時に本人の希望を聞いて安心して生活できるよう努め日々のサービスに生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望を含めケアプラン作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人を家族と思い日々ケアをしている。 食事のあとかたづけなどで出来ることはやって頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人がご家族に会いたいときは電話をかけている。ぎょうじが行われると時ご家族にも参加頂けるよう お便りなどでよびかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と買い物やドライブで外出。ご近所のボランティアさんが来てくれてご家族以外のふれあいがあります。	毎月受診の帰りに馴染みの床屋に寄り散髪をし、昔話をしながら店主に送ってもらうのを楽しみにしている。墓参りや盆・正月に帰宅して家族との食事を楽しむ等、継続的に交流が出来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の相性を考慮し席を移動したり、入居者同士 楽しく触れ合えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様やご本人様が望むときはお役にたちたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人一人の思いを引き出す関わりを持っている。	日々の生活の中で、利用者が好きな洋服・飲み物・おやつ等自分で選び楽しめる様配慮されている。困難な場合は、表情・行動から思いを推し量り支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を聴取、居室の環境変化の緩和に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌、スタッフ申し送りで状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り等での情報を基に職員全体で検討してケアプランを作成し、家族の想いや意見も取り入れサイド家族に確認している。期間中も必要であれば介護計画の見直しを行っている。今年に入りひもときシートの活用も試みており今まで見えなかった個人の可能性を引き出そうとしている。	全職員が日々のかかわりの中で利用者の言葉・表情・行動を多方面から把握し共有している。朝の申し送りやスタッフ会議で意見を出し合い、現況に即した計画作りを行っている。状況に応じその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、きずいた時管理者、スタッフと話し合い、申し送り帳に記入して必要に応じてケアプランに導入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じてケアプランの変更は随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活環境を入居時、日々の談話の中から収集し、なるべく好まれる事を断続できるように支援している。地域ボランティアさんのおいしい季節料理や昔懐かしい小麦まんじゅうを利用者一人一人が手作りし食べる事ができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の思いを尊重したかかりつけ医を確認して職員が送迎している。併設しているクリニックからドクター往診月2回ナース訪問看護が週1回あります。またスタッフ会議や運営推進会議に大久保クリニックナースも参加し入居者の健康管理は当然、地域の方やスタッフに対しても医療的な話や	内科は、隣接医院の医師の月二回の往診を受けている。週一回の看護師の訪問もあり、職員も含めて健康管理や指導を受けている。専門科の対応は家族が基本だが、対応困難な場合は、職員が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護のほか緊急時の体制が夜間休日問わず看護師に連絡がとれる状況にあります。看取りをした際は介護職員と一体となり時にはげまされ励まし合い利用者の心と身体を冷静に判断する事が出来た。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合の情報提供を行い スタッフも面会に行き 安心できる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針についてご家族にアンケート、同意を頂いている。直接職員、ドクター、看護師、ご家族と終末期について話し合いが行われている。また看取りが行われた時は運営推進会議でその状況や結果を報告し意見や感想を頂いており今後の体制の反省やありかたについてとりいれている。	利用者、家族の要望を受け、看取りまでしている。現在の利用者のほとんどが、看取りを望んでいる。民生委員の協力もあり、思いを受け止め、終末期が近くなったら、再度、利用者や家族とよく話し合い確認して、実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生マニュアルをいつでも見れる場所に貼ってある。いつでも看護師、クリニックへ連絡がとれる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時に全スタッフがスムーズに対応できるよう持ち場を変えて火災避難訓練をしている。その際民生員さんに見学して頂き意見感想を受け次の避難訓練に反映させている。	年二回、夜間想定訓練をしている。職員の中に、昼間の訓練未経験者がいるので、来月の訓練は、昼間想定訓練を考えている。緊急時の連絡網はできていて、オムツや飲料水等は、一週間分程度備蓄し、定期補充している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	H25福島県認知症実践者研修受講者2名。今年度も検討している。スタッフ会議で常にお互いの気づかない点を指摘し合い改善を試みている。	職員は、実践研修を受講し、認知症の理解や、利用者支援の基本を学び、質の向上を図っている。穏やかに言葉かけしたり、失禁時の着替えは他の利用者に見えない場所や、居室に誘導してから実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族との連絡は定期的に行っていますが、なかなか面会の回数少なく利用者様の希望がかなわない現状です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大きな流れの中で進めているが、個人の希望が聞かれた場合は変更して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の好みを考えて身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ボランティアさんによる季節の料理の提供がある。利用者もそのつど喜んでおりリクエストにも応じて頂ける。目先を変えて利用者にあった食事の提供が出来ている。	年三回の料理ボランティアの訪問があり、季節の特別料理の昼食会を楽しんでいる。地域の人が届けてくれる、旬の野菜を使い、家庭料理の献立にしている。利用者がテーブル拭きをして、ほとんど残さず食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の記録をし、少ない場合は援助して体調の変化に対応している。食事環境の見直しをしながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨きの声掛け、介助をしている。重度者の口腔ケアとして手づくり綿棒でイソジン口腔清拭施行。口腔環境の悪化を予防している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄間隔を把握。自立できない方は2時間～3時間間隔言葉かけを工夫している。水分の摂取量や時間帯も考慮している。自立できている方の夜間時の排泄は見守りをしている。一人一人のその時の様子や時間を見て誘導、又は介助をしている。	朝の申し送りで個々の排泄状況を全職員が把握し、パットの大きさや声掛け誘導の間隔を考慮している。滑らないタイルを使用しトイレでの転倒予防に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を多めにとり、又は冷たい牛乳を飲んで頂いております。食物繊維の多い野菜や果物を摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の希望や意向に合わせて入浴日以外でも入浴できている。体調の変化により入浴出来ない方に対しては、清拭を行い清潔の保持に努めている	利用者の希望や健康状態に合わせ、時間を見計らいながら支援している。袖や入浴剤を使用し、湯上りには保湿ジェルで皮膚の乾燥を予防している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	オムツが汚れてないか確認したり排尿など済ませて頂き、気に病むことがないようにし、居室も寝具に合った室温調節をし談話の時間をもち穏やかな気持ちで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師との連携を取りながら服薬して頂く。薬剤の誤飲防止の為職員同士が確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生会、花火大会、敬老の日七夕などの行事や音楽を聴いたりカラオケなどを楽しませております。ボランティアさんのご協力による行事も楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣にみんなで出掛けたり、職員とドライブに行き鮎の塩焼きを食べて帰ったりしている。又紅葉の山のドライブはうれしそうでした。ドライブは個人又は仲の良い利用者同士を守っております。	受診後の買い物や散髪、事業所周りの散歩等、出来る限り戸外へ出て気分転換を図れるようにしている。移動が困難な利用者には庭にテーブルとイスを用意し、季節の移り変わりを感じてもらえる様支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	足腰が不自由な方や押し車で歩く利用者があるので 買い物などは自粛しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたり お便りがあれば本人に渡します。返事を出したくても出せない方には職員が代筆をして返事やお礼のお便りを出します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのたたみコーナーにはこたつは置いてないのですが、自由に横になれるようになっています。	清掃が行き届き清潔に保たれている。壁には花見や誕生会、ボランティアが作った季節の弁当等の写真が飾られている。畳コーナーには、一人ひとり専用の座布団が置いてあり、時には横になって寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや応接室は利用者の家族の方が面会に来た時に自由に開放しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	家族の写真を貼ったり、お誕生日のプレゼントを飾っています。	担当職員により、季節の衣類の整理整頓や清掃がなされ気持ち良く暮らせる様配慮されている。各居室のドアには利用者の笑顔の写真が飾られ、間違わない様工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内バリアフリーになっており安全に歩行できる。テスリも設置してあります。		